

発行：富山県高岡農林振興センター 高岡市赤祖父 211 高岡総合庁舎 2階 TEL (0766) 26-8474 FAX (0766) 26-8475

ホームページは高岡農林振興センターで検索!!

高岡農林振興センター

検索



富山県米作改良対策本部・生産部会小委員会
現地検討会 (R6.7.11)



ぶどうの簡易雨除け (P4に本文)



青年農業者紹介 浦田洋平さん (P5に本文)



とやまアグリユースフェスティバル現地視察
(P7に本文)

目次

- 地球温暖化に対応した水稻の高温耐性品種の作付拡大 P 2
- 大豆の今後の管理について P 3
- 水稻収穫作業時の農作業事故と熱中症対策について P 3
- 露地ぶどうの簡易雨除け栽培の実証 P 4
- 園芸作物の新たな取組みを支援します P 4
- がんばる女性農業者 稲積好梅サークル P 5
- 青年農業者 リレー紹介 浦田洋平さん P 5
- 農業関係表彰管内受賞者のご紹介 P 6
- 第63回とやまアグリユースフェスティバルの意見発表 P 7
- 野生鳥獣から農作物と人を守ろう P 8
- 高岡農林振興センターの公式LINEの開設 P 8

地球温暖化に対応した水稻の高温耐性品種の作付拡大

～ 猛暑下での高品質確保に向けて ～

県は、登熟期間が高温でも一等米比率が安定するとともに、良食味である県育成品種「てんたかく」、「富富富」、「てんこもり」の作付拡大を推進しています。これら品種の作付け拡大により、高品質で美味しい米づくりを進めましょう。

1 高温下における高温耐性品種の一等米比率

「コシヒカリ」は移植時期の繰り下げや追肥による登熟期間の葉色維持といった高温登熟に対応した技術対策にもかかわらず一等米比率は48%と低下した一方で、「てんたかく」、「富富富」、「てんこもり」は高温耐性品種の特徴を發揮し一等米比率90%以上を確保できました(図1)。

このため、「コシヒカリ」に偏重している現状から高温耐性品種への切り替えを進め、令和10年には高温耐性品種が5割の面積を占めるよう目標を設定しています(図2)。

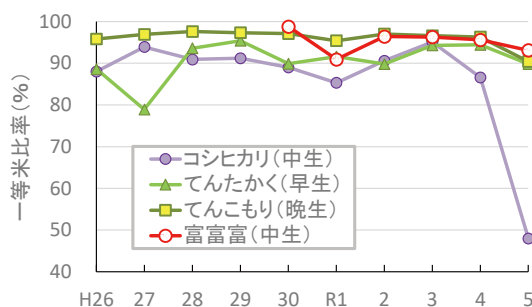


図1 品種別の一等米比率の推移

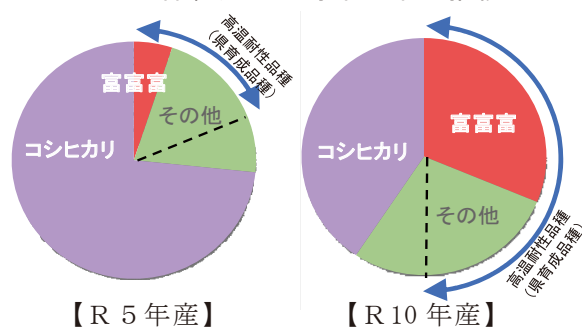


図2 富山米の品種構成イメージ

2 県育成高温耐性品種の作付けメリット

(1) 富富富



「富富富」は「コシヒカリ」より草丈が短く倒伏しにくいことから収穫時の作業性が良いことや、いもち病に強く農薬の使用量を低減できる特徴があり、低コストで環境にやさしい生産が可能となります(図3)。

令和10年には栽培面積10,000haを目標とし、これを達成するため①栽培指導体制のさらなる強化、②乾燥調製施設の乾燥調製能力・機能の向上、荷受けラインの複線化、ライン清掃の簡便化等の改修支援、③県内外の流通販売業者への販売促進を基本に、県内小中学校の米飯給食に「富富富」を提供する等、子育て世代に向けたPRを実施しています。



図3 草丈の比較

(2) てんたかく・てんこもり

「てんたかく」は「コシヒカリ」に比べてやや多収の早生品種、「てんこもり」は晩生品種で、中食・外食用として業務用需要のさらなる拡大が期待されています(表1)。

稈長が短めで耐倒伏性に優れ、登熟の揃いが良い等の栽培しやすさもあるので、収量・品質を確保しつつ、これら3品種を適切に組み合わせることで作業分散による規模拡大を図り、生産コスト削減につなげることが可能となります。

表1 銘柄別販売先 (R6「ほおぼる幸せ。富山米」生産推進大会 全農富山県本部資料より引用)

| 銘柄 | 用途 | 比率 | 主な販売先 |
|-------|--------|-----|----------------------|
| コシヒカリ | 家庭用 | 80% | スーパー、ドラッグストア、生協等 |
| | 中食・外食用 | 20% | コンビニエンスストア、弁当店、パックご飯 |
| 富富富 | 家庭用 | 40% | スーパー、ドラッグストア、生協等 |
| | 中食・外食用 | 60% | コンビニエンスストア |
| てんたかく | 家庭用 | 60% | スーパー、ドラッグストア、生協等 |
| | 中食・外食用 | 40% | 弁当店、寿司チェーン店、スーパー総菜等 |
| てんこもり | 家庭用 | 20% | スーパー、ドラッグストア、生協等 |
| | 中食・外食用 | 80% | 弁当店、スーパー総菜等 |

(農業普及課)

大豆の今後の管理について

～ うね間かん水と適正な病害虫防除 ～

令和5年産大豆の莢先熟（莢は熟して収穫適期となっても茎や葉が青々とした状態）の主な発生要因は、①うね間かん水が適期に実施できなかったことや、②カメムシ類の多発により莢数が減少したためと考えられます。こうした反省をふまえ、令和6年産は、以下のポイントに留意し、収量・品質の向上を目指しましょう。

1 うね間かん水で莢数の確保と子実の肥大促進

開花期頃から9月上旬の間、高温・少雨により土壌が乾燥すると、落花や落莢により莢先熟が発生するリスクが高まります。晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的にうね間かん水（写真1）を行い、莢数の確保及び子実肥大を促しましょう。

なお、かん水は短時間でいき、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水してください。

2 適正な防除によりカメムシ類被害を防止

カメムシ類の加害（写真2）による落莢や子実の肥大停止は、莢先熟の発生要因となります。カメムシ類成虫侵入期の莢伸長期（8月中旬頃）と成虫侵入盛期から2週間後の子実肥大期（8月下旬頃）に2回の基本防除を徹底しましょう。また、多発ほ場では、発生状況に応じて追加防除を実施しましょう。（農業普及課）

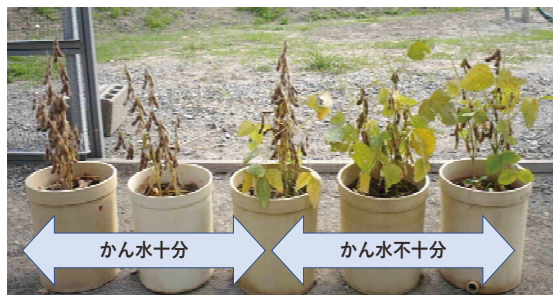


写真1 かん水と莢先熟の関係



写真2 カメムシ類による被害粒

水稲収穫作業時の農作業事故と熱中症対策について

農作業中の死亡事故の要因は、「農業機械」による事故が最も多く、次いで「熱中症」となっています。水稲の収穫作業が本番を迎えるにあたり、コンバインによる農作業事故や熱中症の発生防止に努めてください。

1 コンバインによる事故の特徴

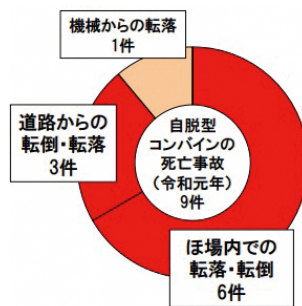
死亡事故原因で最も多いのが転倒・転落（図上）で、負傷事故も含めた事故の約50%は後進時に発生しています。このほか、①刈取・搬送部、脱穀部ではチェーンやベルトへ巻き込まれ、②排わら処理部ではカッタで切られた事故が多く、重症事故に至るケースも少なくありません。

このことから、（ヘルメットを着用し）後進時は慎重に運転するとともに、手こぎ作業時や点検整備、清掃作業時の巻き込まれに注意しましょう。

2 熱中症の発生状況と予防対策

令和5年度の夏期（5～9月）は、農作業中に熱中症によって救急搬送された人数は、直近5年間で、最多となっており、下記の予防対策を実施しましょう。

- ①熱中症警戒アラートを確認（図中）し作業内容を考えましょう。
- ②熱中症対策（高温時の作業と単独作業を避ける、こまめな休憩と水分補給）の実施
- ③熱中症対策アイテムの活用（図下）



熱中症予防情報サイト



熱中症対策アイテム

（農業普及課）

露地ぶどうの簡易雨除け栽培の実証

高品質なぶどう生産は、連棟の雨除けパイプハウスの設置が必須条件ですが、近年の資材費高騰の影響で、同ハウスの設置が難しくなっています。露地ぶどうは降雨の影響により、①葉や果実に病気が発生しやすく、その影響で品質（糖度・外観品質）が低下しやすいこと、②殺菌剤の使用回数が雨除け栽培より多くなることなどの課題があります。全国第3位のぶどう収穫量を誇る岡山県の露地ぶどうでは、（着果場所が一直線になる）短梢栽培と（着果場所のみの）簡易雨除け資材（※）（写真）の活用によるぶどうの低コスト・高品質生産の取組みが普及しています。このため、本県における適応性について現地実証を令和5年度から当センターで実施し、令和6年度からは県下農林振興センターでも実施しています。

※簡易雨よけ資材：雨除けパイプハウスの4分の1の費用で果実の上部だけを被覆する。

当センターは、病害抑制効果と殺菌剤散布回数・量の削減の栽培実証に取り組んでおり、令和5年度は晩腐病の被害軽減効果が示唆され、令和6年度は引き続き病害軽減効果や果実品質の影響について調査しています。



写真 簡易雨除け資材を設置した短梢栽培ぶどう

園芸作物の新たな取組みを支援します

県は、園芸生産の拡大を図るため、市町村が策定する「園芸産地プラン」の実現に向け、「稼げる！とやまの園芸産地支援事業」を令和4年度より市町村との連携のもと実施しています。

同事業のうち「園芸収益力強化推進事業（ソフト）」（補助率は県1/2、市町村1/6、標準事業費60万円）の対象品目は、①水田園芸拡大品目（たまねぎ、にんじん、キャベツ、さといも）と、②地域振興品目（水田園芸拡大品目を除き産地プランが策定されている品目）に区分され事業タイプが下表のとおり区分されます。

表 令和6年度園芸収益力強化推進事業の概要

| 対象品目 | 【タイプ】と事業内容 | 事業実施年の成果目標 | 事業実施主体 | 補助対象経費 |
|------------------------------|-----------------------------|------------------------|---------------------------|--|
| 水田園芸拡大品目 | 【チャレンジ】 新規導入支援 | 水田で対象品目を新たに20a以上作付け | 園芸作物の生産出荷組織・認定農業者・認定新規就農者 | 会場使用料・通信運搬費・借上費用・印刷製本費・原材料費・資材料費・消耗品費・旅費・謝金・役務費・その他知事が特に必要と認めたもの |
| 産地プランが策定されている水田園芸拡大品目 | 【フォワード】 生産技術向上 | 対象品目の単収・上位等級比率の10%以上向上 | 園芸作物の生産出荷組織 | |
| | 【アタック】 前後作の園芸拡大 | 対象品目の前後作に新たに園芸品目を作付け | | |
| 地域振興品目（上記を除く産地プランが策定されている品目） | 【スプレッド】 リーディング経営体の産地への波及 | 対象品目の単収・上位等級比率の10%以上向上 | | |
| 産地プラン策定品目 | 【SDGs】 環境負荷軽減技術の実証 | 販売単価の5%以上向上 | | |

園芸品目の新規導入に関心のある方は、事業タイプの【チャレンジ】、既に園芸品目に取り組んでいる方の新たな取組みには、そのほかの事業タイプをお勧めします。

なお、①いずれの事業タイプも市町村の予算措置が必須となること、②事業タイプ【フォワード～SDGs】は産地プランの策定が必須条件となるため事業の実施にあたっては（当センターが伴走支援しますので）市町村担当課にご相談ください。

（担い手支援課園芸振興班）

がんばる女性農業者

～ 稲積好梅サークル（氷見市）～

「稲積好梅サークル」は、氷見市を代表する地域特産の稲積梅を使った梅干しや梅加工品を製造している女性起業組織です。昭和62年に稲積地区において、むらづくりの推進と梅の生産振興を図る「梅の里振興協議会」が発足し、翌年に梅加工品を研究・生産・販売を目的とした同サークルが設立されました。設立から35年が経ちますが、真っ赤な梅干しの味は昔から変わることなく受け継がれ、今も多くのファンに喜ばれています。

稲積梅は種が小さく肉厚で、酸味が十分なため梅干しには最適な品種です。その梅と食塩、たっぷりの赤しそだけで漬込み、土用干し（写真1）して美しい赤色に染まった梅干しに仕上がります。

梅干しとともに天日干しで作られる「しそ粉」も、梅と赤しその香りが豊かで、程よい塩味と酸味のご飯にピッタリで根強い人気があります。

昨年、「保存しやすい袋がいい。プレゼントに使いたい。量が多い」などの声に応え、お土産や若い人向けに喜ばれるようチャック付袋に改良し今年から新デザインのパッケージ（写真2）で販売しています。

同サークルはメンバーの高齢化による経営継承の課題があることから、昨年、新たなメンバーの加入を契機に、県事業（農村女性起業多世代協働促進事業）を活用し前述の新パッケージの開発に取り組むなど、活動の活性化による経営継承を進めています。



写真1 梅干しを干すメンバー



写真2 しそ粉パッケージ
（左：旧、右：新）

（担い手支援課経営支援班）

青年農業者 リレー紹介 第7回

～ 浦田洋平さん（小矢部市）～

浦田洋平さん（写真）は平成22年に、同氏の叔父（小矢部市水牧）さんのもとに就農後、14年間にわたり、水稻（てんたかく・てんこもり・コシヒカリ）30ha+大豆（えんれいのそら）10haの主穀作経営で地域農業を支える担い手としてがんばっています。

小矢部農業青年協議会には令和元年から加入し、活動に積極的に参加するとともに会員との交流につとめ、本年より同協議会の会長を務めています。また、とやまアグリユースフェスティバル（7月5日魚津市）では、同会を代表し、①スマート農業の経営への導入状況とともに、②地域の方と上手く連携し、無理をせず農業を続けていける「小矢部型コンパクトシティ！農業」について意見発表されました。

地域農業の現状として、新しく就農する人や代替わりする農家が少ないことが課題であるとし、「農業＝（イコール）若者に魅力ある仕事」となるための一方策として①「冬季は休日を増す」フレックスタイムの導入や、②半農半Xやダブルワークなどの柔軟な働き方が必要であると感じておられ、今後の地域農業の活性化に向けた取組みが期待されます。



浦田 洋平さん

（農業普及課小矢部班）

農業関係表彰管内受賞者のご紹介

～ 受賞された皆様、おめでとうございます ～

令和5年度受賞

1 令和5年度富山県農業振興賞(令和6年2月14日表彰)

●米(集団)部門 (農)下条営農組合(射水市)

先駆的に水稲乾田V溝直播栽培に取組み、管内の栽培技術の確立に寄与するとともに、近隣組織と連携して農作業の受委託に取組むなど地域の農業振興に貢献されました。



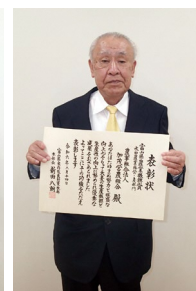
(農)下条営農組合 (農)光明寺営農組合

●麦(集団)部門 (農)光明寺営農組合(高岡市)

排水対策を中心とした栽培管理の徹底で、収量の安定化・品質向上を図るとともに、麦あとの緑肥による地力増強など麦生産振興の模範として地域に貢献されました。

●麦(集団)部門 (農)大浦営農組合(氷見市)

湿田の多い氷見市で、排水対策を徹底することにより県内でも上位の単収を確保するとともに、氷見市内全域の大麦の乾燥調製を受託し、地域農業の中心的担い手として貢献されました。



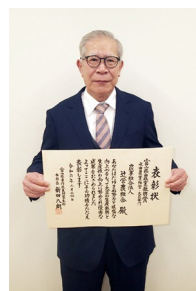
(農)大浦営農組合 (農)加茂営農組合

●麦(集団)部門 (農)加茂営農組合(射水市)

排水対策など基本技術を徹底し、収量の安定化と品質向上を図っている。また、地域の担い手と連携し農地の利用調整を行うなど地域農業の振興に貢献されました。

●大豆(集団)部門 (農)辻営農組合(高岡市)

排水対策など栽培管理の徹底により、収量の安定化と品質向上を図っている。また、県生育観測ほの設置により、地域の生産技術向上に共に取り組む経営体として貢献されました。



(農)辻営農組合 舟塚 有克 氏

●畜産部門 舟塚 有克 氏(氷見市)

氷見和牛改良組合長として、放牧を活用した耕作放棄地の解消等、地域農業基盤の維持に貢献されました。

●指導者部門 村本 孝義 氏(高岡市)

営農組合の代表として主穀作に加え、福岡町の伝統工芸作物であるスゲの生産に取組み、現在は、越中福岡菅笠制作保存会の会長を務め、スゲの生産振興に大きく貢献されました。



村本 孝義 氏

●園芸(集団)部門 高岡市切花生産部会(高岡市)

冬季の球根切り花生産では、オランダ方式の移動式ベンチを導入してハウスの回転率を向上させることにより、生産の効率化・生産量の拡大を図っており、夏季切り花についても移植機を導入して大規模生産体制を整備しており、新たな花き産地の育成・発展に貢献されました。

●環境にやさしい農業部門 廣 和仁 氏(氷見市)

県内外の有機農業での就農希望者に対して、研修の受入れやアドバイスを行うほか、とやま有機農業推進アドバイザーとして登録され富山県内での有機農業の普及拡大に貢献されました。

2 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰（令和6年3月1日表彰）

●ブルーベリーと山の幸いななかふれさか Café 風楽里 上野達也、和枝夫妻（氷見市）

同夫妻は、平成13年に氷見市触坂の休耕田を活用し、県内初の摘み取り体験のできるブルーベリー園「いなかふれさか」を設置し、平成16年にはブルーベリーに特化した農家カフェ「café風楽里」をオープンさせ、現在に至るその間、家族経営協定の締結に加え認定農業者の夫婦共同申請など、共同で取り組まれました。



上野達也氏（中央）和枝氏（左）

3 富山県農村文化賞（令和5年12月5日表彰）

●北蟹谷地域活性化協議会（小矢部市）

少子高齢化や耕作放棄地等の問題に対し、再生を目指すため9つの自治会が中心となり、協議会を設立し、ポータルサイト「北蟹谷だより」での協議会活動やイベント等の紹介を通して、地域住民が助け合う温かな地域づくりに寄与されました。



北蟹谷地域活性化協議会

令和6年度受賞

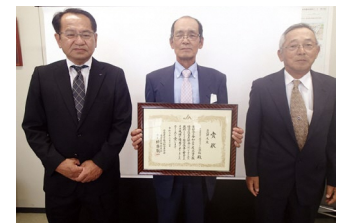
1 第52回（令和5年度）全国豆類経営改善共励会（令和6年6月14日表彰）

全国農業協同組合連合会経営管理委員長賞

富山県農業振興賞 大豆（集団）部門（令和6年2月14日表彰）

●（農）エコファーム水牧（小矢部市）

排水対策の徹底や気象条件に応じた培土作業、積極的な畝間かん水など、収量確保に向けきめ細かな作業を実施し、地域の模範的な経営体として大豆の生産振興に貢献されました。



（農）エコファーム水牧

2 令和5年度農業電化推進コンクール農業電化協会会長賞

●田中園芸（田中寛二氏）（小矢部市）（令和6年6月18日表彰）

水稲+バラ・ストック切り花+6次産業化による大規模複合経営を実施。バラはロックウールによる周年栽培を実施し、栽培温室の温度管理にあたってはヒートポンプ+温風暖房機によるハイブリッド運転と多段サーモによる変温管理で燃油消費量の削減とともに高品質なバラ生産を両立されました。



田中 寛二 氏

第63回とやまアグリユースフェスティバルの意見発表

標記フェスティバルが7月5日に新川文化ホールで開催され、県内の青年農業者が一堂に会し、①先進農家等視察、②意見発表大会、③講師を招いての研修会が行われました。

意見発表大会では、各地区青年協議会の代表7名が出席し、当センター管内からは、氷見射水高岡地区青年農業者協議会の不破大介氏が「人材不足ですか?」、小矢部農業青年協議会の浦田洋平氏が「身近なスマート農業（ドローンを導入して）」で意見発表を行い、不破氏が最優秀賞（富山県知事賞）を受賞されました。

不破氏は、11月に本県で開催される北陸ブロック農業青年会議の意見発表会に本県の代表として出席され、さらには、全国大会出場を目指して発表内容に磨きをかけることとしています。



不破 大介さん

（担い手支援課経営支援班）

野生鳥獣から農作物と人を守ろう

～ 侵入防止柵による農作物被害の軽減・ツキノワグマ人身被害防止～

1 侵入防止柵の適正な設置

県は、毎年8月1日を侵入防止柵一斉点検日とし、その前後1週間で県内一斉見回り点検運動(図1)を実施しています。

本年に入り、侵入防止柵の点検を実施していない場合、電気柵では電圧が4,000～8,000Vで通電しているか(※①)、恒久柵では破損していないか(※②)等、見回り・点検をお願いします。

※柵の正しい設置や管理方法をYouTubeで配信中

① 電気柵の設置(左)・管理(中央)・撤去(右)



② 恒久柵の設置・管理



図1 一斉見回り点検チラシ

2 富山県ツキノワグマ出没情報地図(クマっぷ)の紹介

県は、市町村を通じて収集したツキノワグマの目撃・痕跡の情報をインターネットで提供(「検索:富山県 クマっぷ」)しています。

通勤、通学や行事開催予定箇所のクマ出没情報を確認し、人身被害防止にお役立てください。

「クマっぷ」(図2)を表示するとピンク色のピンがクマの出没した箇所を現し、ピンをクリックすればその詳細が表示されます。

(企画振興課)

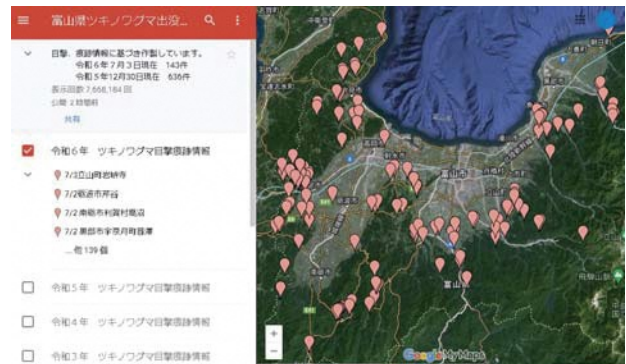


図2 クマっぷ画面

高岡農林振興センターの公式LINEの開設

当センターのホームページ「高岡農林振興センター」では、トップ画面の「新着情報」のページを活用して、①気象情報(栽培管理・気象災害の未然防止対策)、②補助事業や講習会等募集関係の情報、③農作業安全・用水への転落防止・クマ出没情報・センター情報誌の更新など、皆さんに役立つと思われる情報を随時発信しています。

ホームページの閲覧状況について、管内の農業者に確認してみたところ、「新しい記事が掲載されているかどうかわからないホームページを閲覧していくことは少ない」との意見に加え、情報発信があった時は、通知される、「X(旧ツイッター)」や「LINE(ライン)」を活用しているとのことでした。このことを受け、当センターでは、ホームページと併せて、公式LINEによる情報発信も開始しましたので、図の2次元バーコードから「友だち」になっていただきますようお願いします。



図 2次元バーコード

(担い手支援課経営支援班)